

[バヌアツ]

みんなが笑顔になる ささやかな国際協力

うれしそうに楽器を手にする子どもたち。

日本の小さな善意で、世界中にたくさんの笑顔が広がっている。

Close Up!

ジャイカの
あしあと



満

面の笑顔で楽器を見せる子どもたち。今にも楽しい音色が聞こえそうだ。ここは大洋州の島国バヌアツの首都郊外にある

メレマート小学校。日本ではおなじみの鍵盤ハーモニカやリコーダーだが、バヌアツの子どもたちにとっては初めて手にする楽器だ。

「私たちの学校へハーモニカを送ってください。子どもたちは大喜びで練習に夢中になっています」。同校で教員の授業支援などを行っている青年海外協力隊の長嶺聖子さんが生徒の様子を伝えてくれた。

これらの楽器は、JICAの「世界の笑顔のために」プログラムで日本から贈られたもの。このプログラムでは、開発途上国で必要とされている教育、福祉、スポーツ、文化などの関連物品を日本国内で募集し、JICAが派遣中のボランティアを通じて世界各地に届けている。昨年は春と秋に行われ、春の募集では432の個人・団体から提供された約3万7000点の物品が56カ国に送られた。日本にいながらにして気軽に国際協力に参加できる機会となってお



り、また、古いけれど状態の良い物や、使うことなくしまっている物などが、世界中でたくさんの笑顔とともに再び活躍

している。

ボランティアたちを通して贈り物を受け取った現地の人々からは、感謝の手紙が続々と寄せられる。バヌアツの子どもたちも、日本の「友達」に向けて、「楽器を送ってくれてありがとう」「楽しく練習しています」といったメッセージを寄せ書きしたかわいの手紙を送ってくれた。こうした手紙を読んだ日本の子どもたちは途上国や国際協力により興味を持つようになり、新たな交流にもつながっているようだ。ささやかだけど、贈るほうも贈られるほうも、みんなが笑顔になるプログラムに、あなたも参加してみませんか？

